REPORT

独立行政法人 国際協力機構（ジャイカ）　四国センター JICA徳島デスク

森陽子

コロナの影響でJICA海外協力隊の活動は志半ばで帰国となりましたが、日本へ帰国後、協力隊活動の経験を生かした職に就いた帰国隊員をご紹介します。

今回の記事は、SDGsの目標、No.11「住み続けられるまちづくりを」、No.14「海の豊かさを守ろう」に繋がっています。これらの目標を達成するために、身近なことから少しでもいいので、できることから始めていくことが大切だと思います。

日常生活の中でも、自分の周りで何ができるのか、立ち止まって考えるきっかけになれば幸いです。

エクアドルから徳島へ

株式会社パブリック・ベースボールクラブ徳島
徳島インディゴソックス球団　高島駿輝

私はJICA海外協力隊(2018年度3次隊)として南米にあるエクアドルという国で野球の普及活動を行っていました。現地では「野球」という単語は知っていても、野球がどのようなスポーツなのかはもちろん、野球を見たことがないという人を相手に野球の良さなどをプレゼンし、学校やスポーツ施設などで野球を広めていきました。

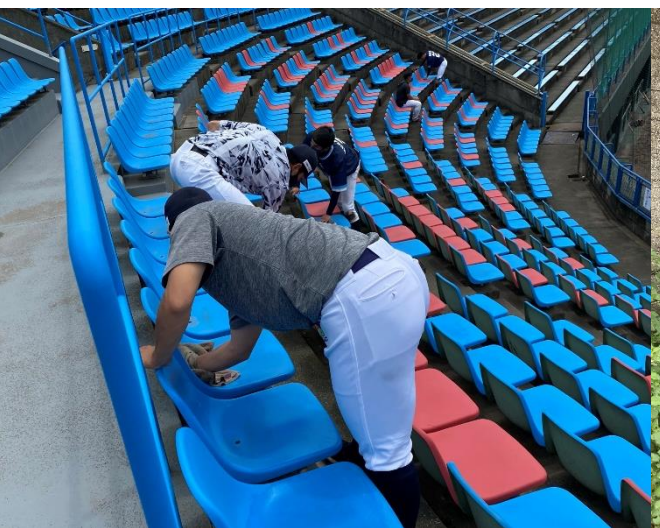
しかし、2020年3月に新型コロナウイルス感染症の影響により任期途中でありながら帰国となり、2021年3月からはプロ野球独立リーグの四国アイランドリーグPlusの徳島インディゴソックス球団で職員として働いています。

球団ではごみゼロ運動を実施しており、グランドも、使う道具も、その他使用する全てに対して感謝をする為に丁寧に使用するという事を球団内で共有しています。野球（スポーツ）をさせていただくには、まず環境が大事だということです。

また、お客様に対しても球団と同じ方向を向いて頂きたく、球場内ごみゼロ運動を実施しています。球場で発生したゴミは各自で持ち帰っていただくようお願いし、ゴミを出さない努力とゴミがゴミであることの認識を各自に感じてもらい、お客様にも意識の改革を促しています。

その結果もあり、試合後の球場は年々綺麗な状態で保たれています。また、徳島で活動しているので徳島の環境にも感謝しています。

我々は野球をする環境が大事ですが、その前提として徳島県という街が住みやすい街であり続けることが大事だと思っています。球団のスポンサー企業の多くが環境保全への意識を持っています。そのような企業と一緒に海岸の掃除や道路の清掃活動を実施しています。

球団の選手も地元の方々と一緒に活動を行うことで我が街徳島県にも愛着が生まれています。心も綺麗になり、環境も整い、いい事づくしだと思っています。

これからも徳島インディゴソックス球団は徳島県、そして県民の皆様の為にも野球以外でも活躍したいと思っています。